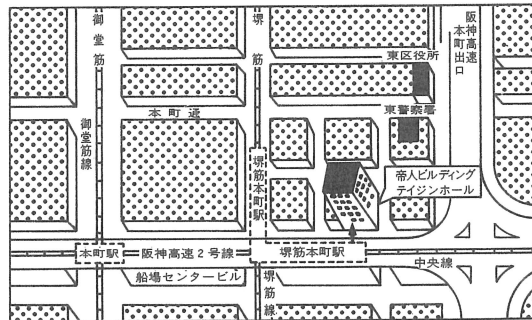
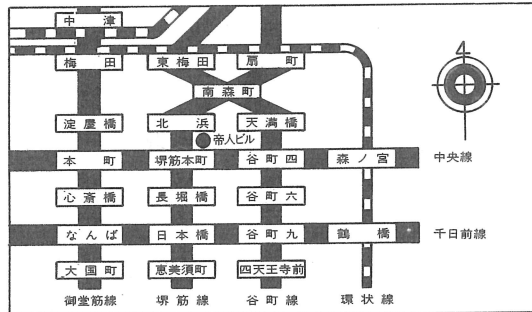


第13回近畿川崎病研究会

日時 平成元年3月11日(土)
14:00~18:30

会場 テイジンホール
大阪府中央区南本町1丁目6番7号
TEL 06(268)3131~3132

帝人ビルディングテイジンホールご案内地図



地下鉄中央線・堺筋線の堺筋本町駅東出口から専用通路がございます。(東側2号出口)

—近畿川崎病研究会—

運営委員長

上村 茂

運営委員

上村 茂	小川 實	大国 英和	荻野廣太郎
尾内善四郎	神谷 哲郎	北村惣一郎	清沢 伸幸
四宮 敬介	鈴木 盛一	田村 時緒	内藤 泰顕
西岡 研哉	馬場 國藏	播磨 良一	伴 敏彦
広瀬 一	藤岡 義樹	藤原 久義	楨野征一郎
松田 暉	安居 資司	山城 国暉	山本 隆
横山 達郎	吉林 宗夫		

顧問

川崎 富作 川島 康生 濱島 義博

事務局代表

神谷 哲郎

事務局

〒565 吹田市藤白台 5-7-1

国立循環器病センター 小児科 鈴木淳子

TEL 06-833-5012

——出席者へのお知らせとお願い——

1. 参加者へ

- (1)研究会開始時間は午後2時です。
- (2)研究会会場費は年会費に含まれております。(年会費2,000円です)
なお、未入会の方は入会の程お願い致します。

2. 演題発表者へ

- (1)口演時間は特に制限をいたしません、討論を十分行ないたいと思いますので、7～8分をめぐりにお願い致します。
- (2)スライドは35%版用とし、一面のみの使用とします。
- (3)スライドは会場入場の際「スライド受付」にご提出下さい。

3. 口演者へのお願い

口演内容はProgress in Medicine 7月号(ライフ・サイエンス社)に掲載される予定ですので、次の要領にておまとめいただきたく存じます。

執筆要項：400字詰原稿用紙にて図表は別で8枚以内におまとめ下さい。また、200字以内の英文抄録を付して下さい。

原稿締切：平成元年4月30日(後日、(株)ライフサイエンスよりあらためてご連絡致します)

問合せ先：(株)ライフ・サイエンス 西尾敏己

東京都渋谷区渋谷1-5-2 須藤ビル

TEL 03(407) 8963

プログラム

座長 上村 茂 (和歌山県立医科大学 小児科)

14:00~14:25

1. 川崎病罹患後6年目にルポイド肝炎を発症した1例 ——川崎病急性期の肝バイオプシーとの比較——

和歌山県立医科大学小児科

鈴木啓之、南 頼彰、津野 博、二沢美香、
上村 茂、小池通夫

和歌山県立医科大学検査診断学

前田次郎

紀南総合病院小児科

根来博之

紀南総合病院病理部

田中智之

2. 左前腕のブドウ球菌性蜂窩織炎に続発した川崎病の1症例

岐阜県立多治見病院小児科

中野正大、早川 聡、鈴木達雄、島田治子、
和田力也、豊田桃三

座長 荻野廣太郎 (関西医科大学小児科)

14:25~14:50

3. 多彩な合併症を呈した川崎病の1女児例

滋賀医科大学小児科

山脇 保、杉浦康夫、西藤成雄、服部政憲、
藤関義樹、大矢紀昭、島田司巳

4. 多彩な合併症と特異な経過をとった川崎病の1再発例

近畿大学医学部小児科

宮里裕典、宮本博介、山本 隆、牧 淳

近畿大学医学部心臓小児科

篠原 徹

座長 児嶋茂男（明和病院小児科）

14：50～15：15

5. 冠動脈障害を認めず心不全をきたした川崎病心筋炎の2例

天理よろづ相談所病院小児循環器科

三谷義英、田村真通、田村時緒

天理よろづ相談所病院小児科

奥野毅彦

6. DCM様の power failure をきたした川崎病心筋炎の1例

神戸市立中央市民病院小児科

吉田紀子、春田恒和、山川 勝、深谷 隆、

富田安彦、馬場國蔵

<休 憩>

座長 西岡研哉（京都大学医学部小児科）

15：25～16：05

7. 川崎病剖検心におけるヒト ANP の心内分布

京都女子大学食物学科

藤原兌子

京都大学医学部第3内科

藤原久義、竹村元三

京都大学医学部第2内科

向山政志、斉藤能彦、中尾一和、井村裕夫

8. 川崎病における血中シアル酸値及尿中NAG値の推移

国保日高総合病院小児科

平山健二、水越真里、家永信彦

和歌山県立医科大学小児科

上村 茂、鈴木啓之、南 頼彰、小池通夫

9. MCLSにおける血中ムコ蛋白成分の変動と病態との関連

新潟大学医学部小児科

鳥谷部森、浅見 直、佐藤 勇、橋本尚士、

須田昌司、堺 薫

座長 尾内善四郎（京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門）

16：05～16：45

10. 冠動脈造影上動脈瘤小から局所性狭窄が出現した例の検討

国立循環器病センター小児科

岩谷 一、奥野昌彦、小野安生、木幡 達、
鈴木淳子、神谷哲郎

近畿中央病院小児科

福寫章子、有田耕司

11. 運動負荷心電図でST低下を認めた正常冠動脈の川崎病既往例

京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

神谷康隆、松村淳子、福持 裕、白石 公、
早野尚志、林 鐘声、浜岡建城、清沢伸幸、
尾内善四郎

12. 川崎病の急性期に連合弁膜症と心筋梗塞を認めた乳児例

京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

白石 公、福持 裕、早野尚生、神谷康隆、
林 鐘声、浜岡健城、尾内善四郎

京都府立医科大学小児科

角能庸介、片岡佳子

座長 篠原 徹（近畿大学医学部心臓小児科）

16：45～17：10

13. 川崎病冠動脈障害におけるポジトロンCT所見

— ^{201}Tl 心筋 SPECT との比較検討 —

京都大学医学部小児科

吉林宗夫、西岡研哉、村松正彦、三河春樹

京都大学医学部放射線核医学科

玉木長良、米倉義晴、山下敬司、小西淳二

三菱京都病院小児科

上田 忠

14. 大阪府下の全高等学校・中学校・小学校に於ける川崎病既往児
の実態について

——実態調査よりみた今後の川崎病既往児の管理上の問題点——

堺市学校医会

竹中恒夫、加納 熏

17:15~18:15

【特別講演】 座長 小池通夫（和歌山県立医科大学小児科）

『川崎病血管炎の病理

—— 動物モデルとの比較 ——』

東北大学医学部病理学第二

京極方久

Venilon®

効能・効果

1. 低又は無ガンマグロブリン血症
2. 重症感染症における抗生物質との併用
3. 特発性血小板減少性紫斑病（他剤が無効で著明な出血傾向があり、外科的処置又は出産等一時的止血管理を必要とする場合）

生体の防衛構想

Self Defense Initiative(SDI)

用法・用量

本剤は、添付の日局注射用蒸留水（500mg製剤では10ml、1,000mg製剤では20ml、2,500mg製剤では50ml）に溶解して点滴静注するか、又は徐々に直接静注する。

低又は無ガンマグロブリン血症、重症感染症における抗生物質との併用に用いる場合は、通常、成人に対しては、1回にスルホ化人免疫グロブリン2,500mg（50ml）1～2本を、小児に対しては、1回にスルホ化人免疫グロブリン50～150mg（1～3ml）/kg体重を投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

特発性血小板減少性紫斑病に用いる場合は、通常、1日にスルホ化人免疫グロブリン200～400mg（4～8ml）/kg体重を投与する。なお、5日間投与しても症状の改善が認められない場合は以降の投与を中止すること。年齢及び症状に応じて適宜増減する。

使用上の注意

1. 一般的注意

- (1) 間隔をおいた輸注によりアナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分行うこと。
- (2) 本剤による特発性血小板減少性紫斑病の治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (3) 小児の急性特発性血小板減少性紫斑病は多くの場合、自然寛解するものであることを考慮すること。

2. 次の患者には慎重に投与すること

IgA欠損症の患者

3. 副作用

- (1) ショック：まれにショック症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、悪寒、戦慄、呼吸困難、頻脈、不安感、血圧低下等の症状があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。
- (2) 過敏症：まれに発熱、嘔吐、頭痛、局所性浮腫、ときに麻疹疹などの症状があらわれることがある。

4. 適用上の注意

- (1) 溶解時に不溶物の認められるものは使用しないこと。又、一度溶解したものは1時間以内に使用すること。使用後の残液は再使用しないこと。
- (2) 上記の副作用を避けるため、本剤を点滴静注により、ゆっくり（約2～3ml/分）投与することが望ましい（特に低又は無ガンマグロブリン血症の患者には注意すること）。
- (3) 他の製剤との混注は避けること。

輸注用免疫グロブリン製剤

ベニロン®

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉 指

■ 健保適用

販売
フジサワ
大阪市東区道徳町4丁目3番41

神奈川元・販売
TEIJIN テイジン

関東事業本部 東京都千代田区内朝野町2丁目1番100

製造元・販売
化血研
札幌市清田区大塚4丁目2番20

資料請求先：藤沢薬品工業株式会社薬情報室、帝人株式会社医薬事業本部、化学及血清療法研究所営業部